

令和 7 年度

さいたま市放課後子ども総合プラン推進委員会 委員名簿

(要綱掲載順・敬称略)

	氏 名	所 属 ・ 役 職
委 員	臼 杵 信 裕	元さいたま市教育委員会 教育長
委 員	上 野 茂 昭	埼玉大学 教育学部 准教授
委 員	森田 真紀子	社会福祉法人 さいたま市社会福祉事業団 児童課長
委 員	駒木根 敦子	特定非営利活動法人 さいたま市学童保育の会 事務局次長
委 員	清 水 ヨ シ 子	さいたま市 民生委員児童委員協議会 理事
委 員	高 橋 麗 子	さいたま市 民生委員児童委員協議会 主任児童委員連絡会 副部会長
委 員	佐 野 公 子	さいたま市立小学校校長会 (さいたま市立木崎小学校長)
委 員	菅 野 千 香 子	さいたま市 P T A 協議会 副会長
委 員	橋 本 正 晴	青少年育成さいたま市民会議 常任理事
委 員	溝 口 誠	チャレンジスクール運営会議 会長

さいたま市放課後子ども総合プラン推進委員会設置要綱

(設置)

第1条　さいたま市において、放課後対策事業の総合的な在り方を検討し、効率的かつ円滑な実施を推し進めるため、さいたま市放課後子ども総合プラン推進委員会（以下「推進委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条　推進委員会は、次の事項について検討する。

- (1)放課後子ども総合プランの推進
- (2)放課後対策事業の実施方針
- (3)安全管理方策
- (4)広報活動方策
- (5)指導者研修の企画
- (6)事業実施後の検証・評価
- (7)その他、放課後子ども総合プラン推進事業の実施に関し必要な事項

(構成)

第3条　推進委員会の委員は15人以内とし、学識経験者及び別表に掲げる団体が推薦する者をもって構成する。

(任期)

第4条　委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2　委員が欠けた場合の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条　推進委員会に委員長及び副委員長1人を置く。

2　委員長は、委員の互選により選出し、副委員長は、委員長が指名する。

3　委員長は、会務を総理し、推進委員会を代表する。

4　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

5　委員長及び副委員長の任期は、委員の任期中とする。

(会議)

第6条　推進委員会の会議は、委員長が招集し、会議の議長となる。

2　委員長は、必要に応じて推進委員会に諮り、委員以外の出席を求めることができる。

(庶務)

第7条　推進委員会の庶務は、子育て未来部放課後児童課において処理する。

(委任)

第8条　この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年5月18日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年10月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和6年2月27日から施行する。

附 則

この要綱は、令和6年4月1日から施行する。

別表 （第3条関係）

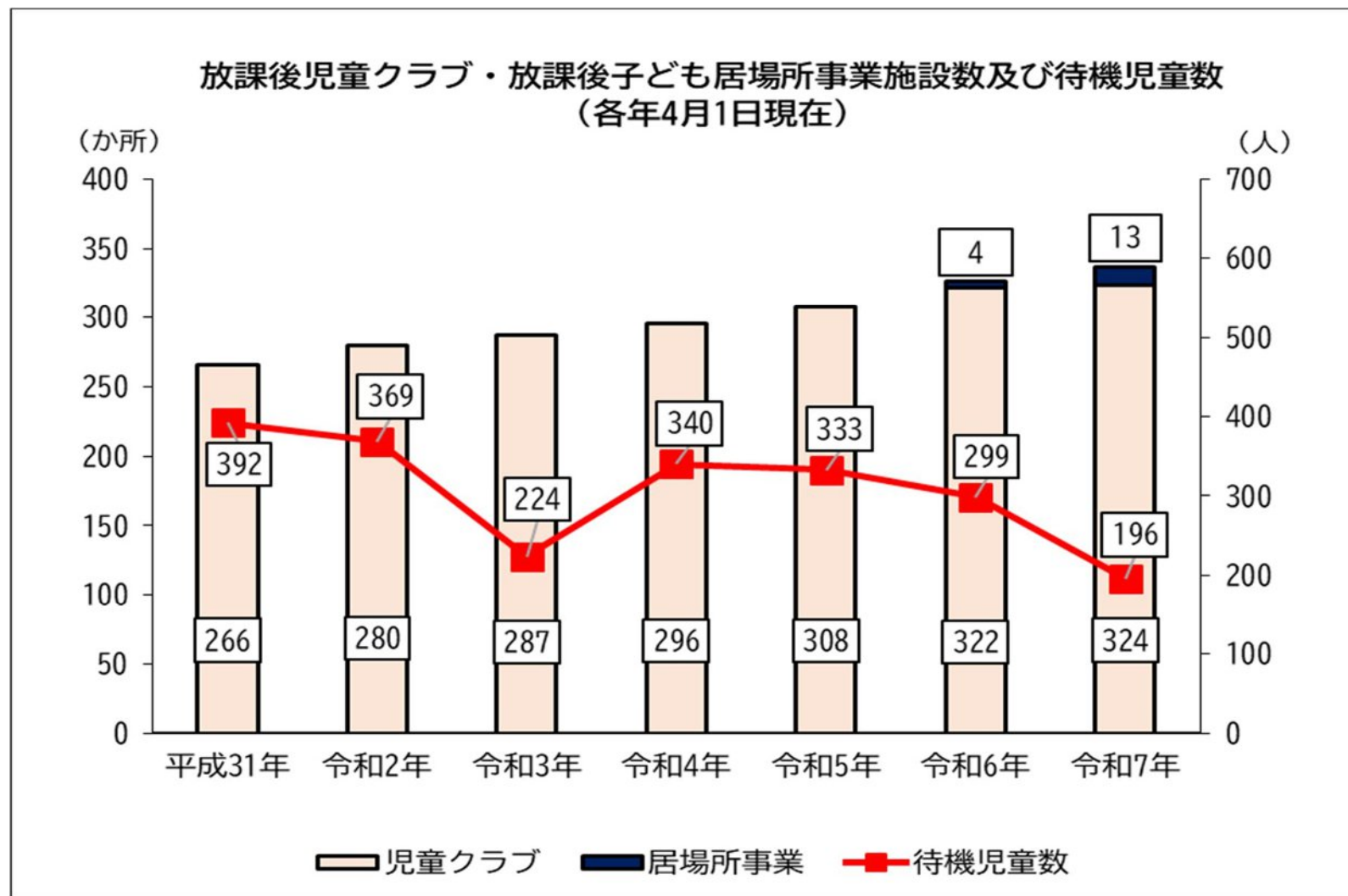
社会福祉法人さいたま市社会福祉事業団
特定非営利活動法人さいたま市学童保育の会
さいたま市民生委員児童委員協議会
さいたま市民生委員児童委員協議会主任児童委員連絡会
さいたま市立小学校校長会
さいたま市PTA協議会
青少年育成さいたま市民会議
さいたまチャレンジスクール運営会議

さいたま市放課後子ども居場所事業 について

令和7年7月28日

さいたま市 子ども未来局
子育て未来部 放課後児童課

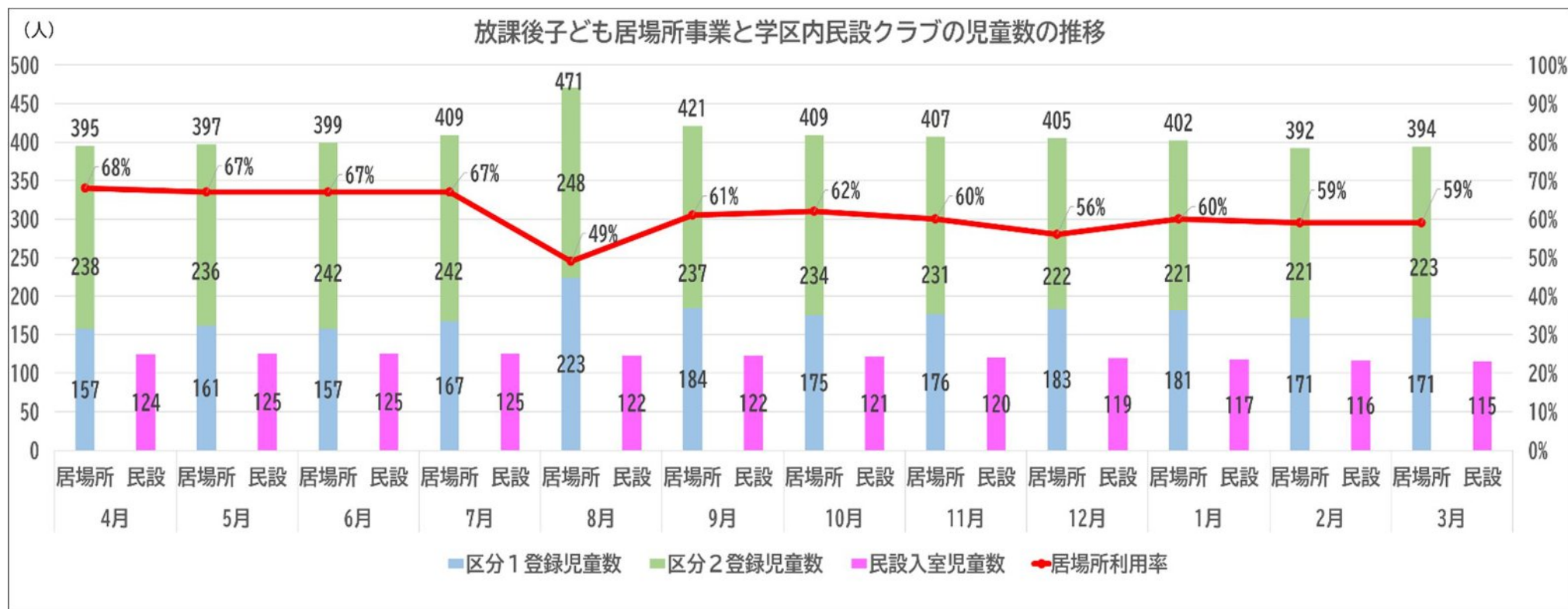
1 本市における待機児童数の推移



- 令和7年4月1日現在の待機児童数は196人であり、昨年度の299人から103人減少した。
- 令和6年度中（令和6年4月2日から令和7年4月1日開設分）に民設放課後児童クラブを15か所整備した。
- 令和7年4月1日から放課後子ども居場所事業のモデル事業を9校追加し、13校で実施した。

2 放課後子ども居場所事業 令和6年度モデル校の実施状況

児童数の推移



※人数は各月1日時点。利用率は各月の平日利用率の平均値。

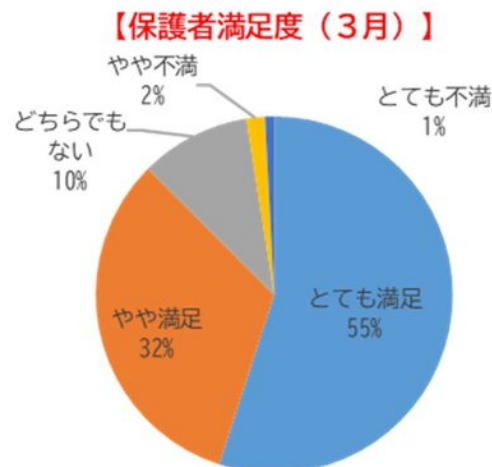
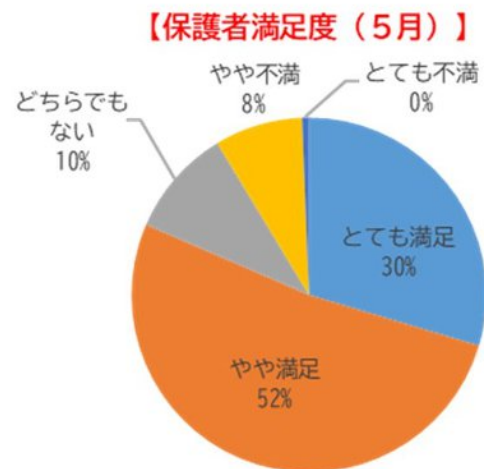
※居場所事業は4校合計、民設クラブは3学区4か所の合計値。

- 放課後子ども居場所事業の登録児童数は4月以降約400人で推移し、夏休みとなる8月に471人と増加したが、9月以降減少し、再び約400人で推移した。翌年3月1日の登録児童数は394人となっており、年度当初とほぼ同数だった。利用区分ごとの状況としては、年度当初と比較すると、区分1の割合が増加し、区分2の割合が減少した。
- 放課後子ども居場所事業の利用率は夏休みや冬休み期間が低く、学期中においては1学期と比較し2・3学期が低かった。
- 民設放課後児童クラブにおける入室児童数は4月1日時点の124人から9人減少して、翌年3月1日時点で115人となった。

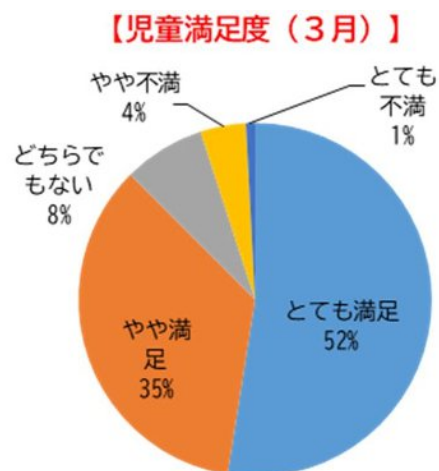
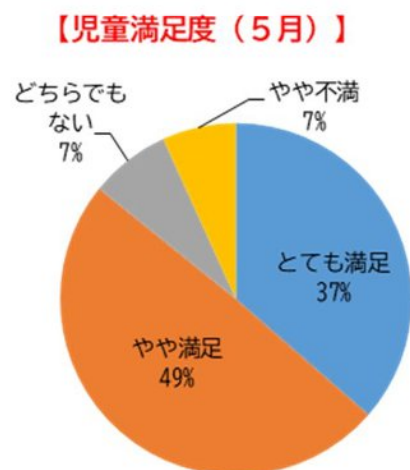
2 放課後子ども居場所事業 令和6年度モデル校の実施状況

利用者アンケート①

年度中に4回のアンケートを実施。「満足度」の結果（5月と3月を比較）は以下のとおり。



- ・「とても満足」が25ポイント増
- ・「とても満足」「やや満足」の合計が5ポイント増
- ・「やや不満」が6ポイント減



- ・「とても満足」が15ポイント増
- ・「とても満足」「やや満足」の合計が1ポイント増
- ・「やや不満」が3ポイント減

●「保護者満足度」「児童満足度」は5月と比較し、どちらも向上した。

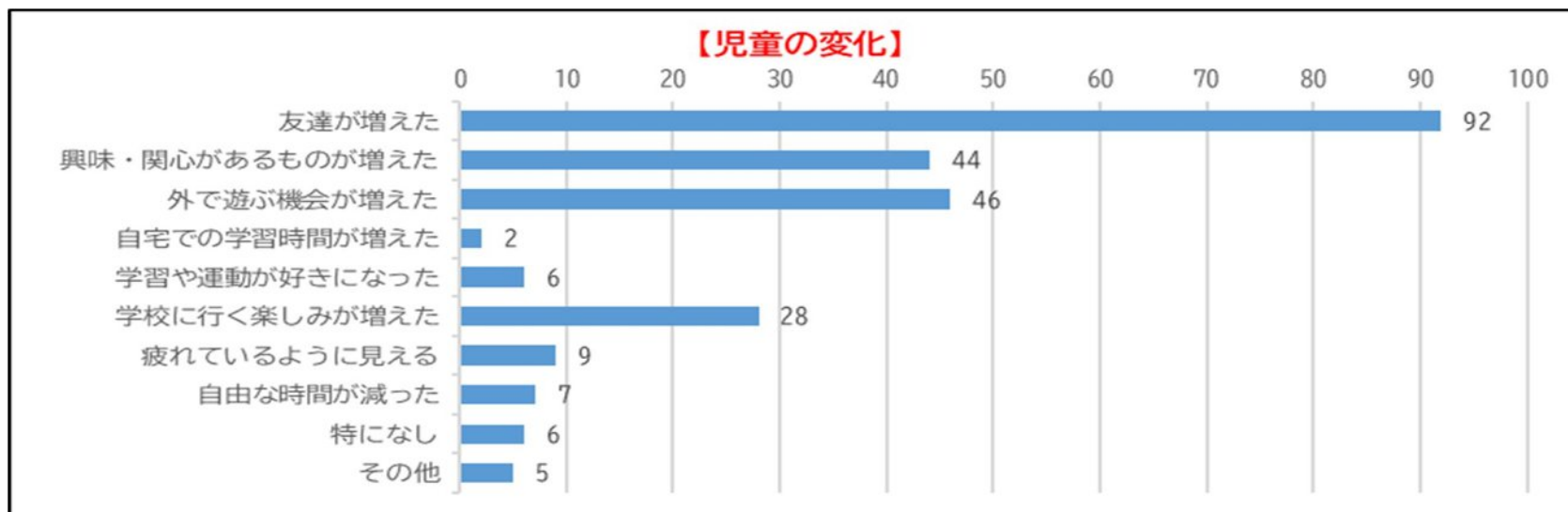
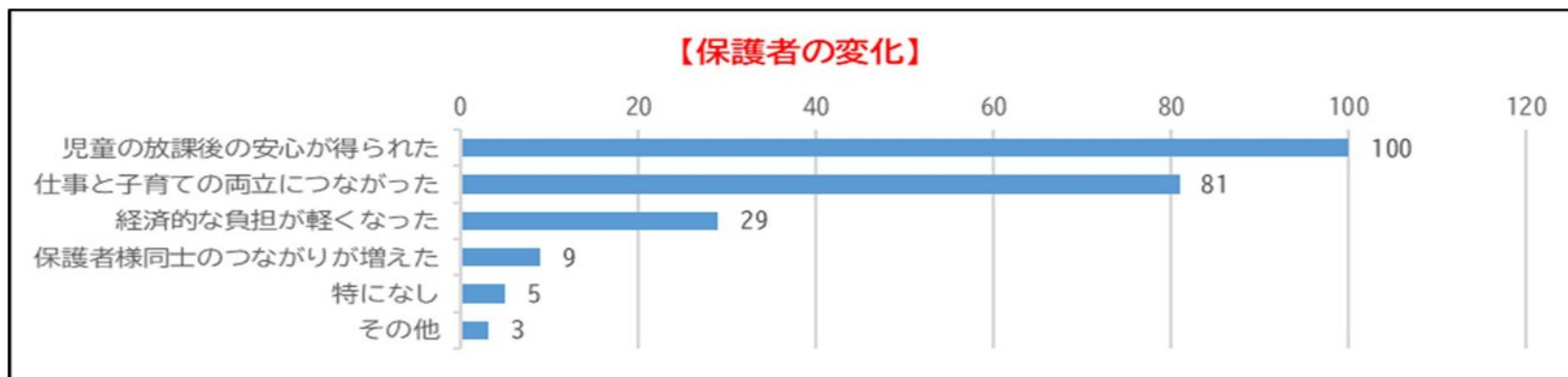
2 放課後子ども居場所事業 令和6年度モデル校の実施状況

利用者アンケート②

3月に実施したアンケートの結果は以下のとおり。

利用による変化

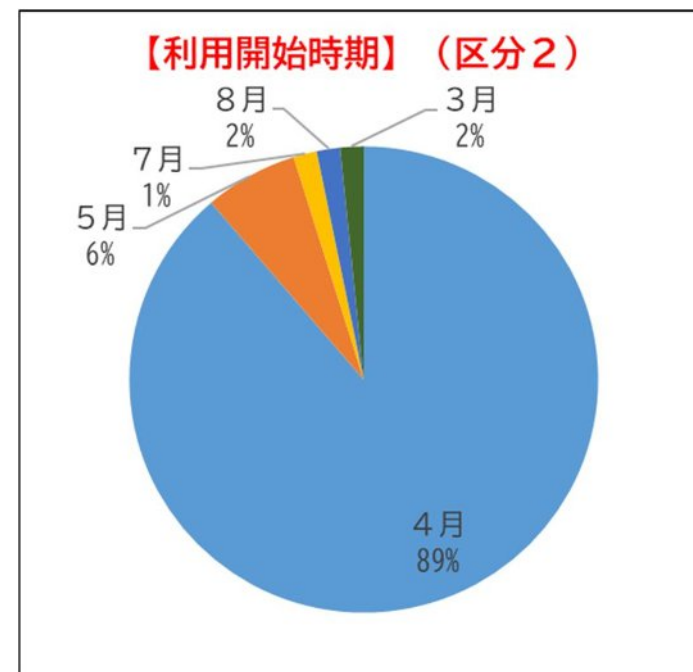
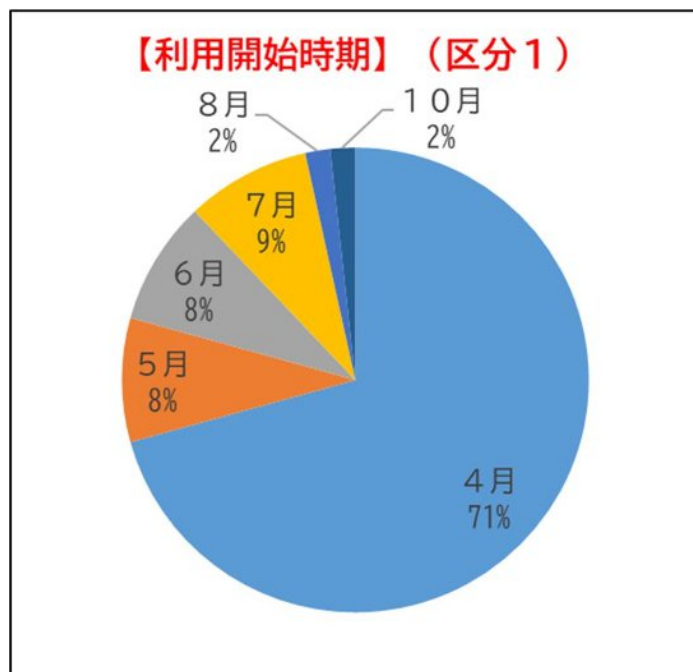
(単位：人)



- 保護者の変化は「児童の放課後の安心が得られた」が最も高く、「仕事と子育ての両立につながった」、「経済的な負担が軽くなった」という順になった。
- 児童の変化は「友達が増えた」が最も高く、「外で遊ぶ機会が増えた」、「興味・関心があるものが増えた」という順になった。

2 放課後子ども居場所事業 令和6年度モデル校の実施状況

利用開始時期



●利用開始時期は、区分1利用者のうち71%が、区分2利用者のうち89%が「4月」の結果となった。

●5月以降に利用を開始した理由

（区分1）

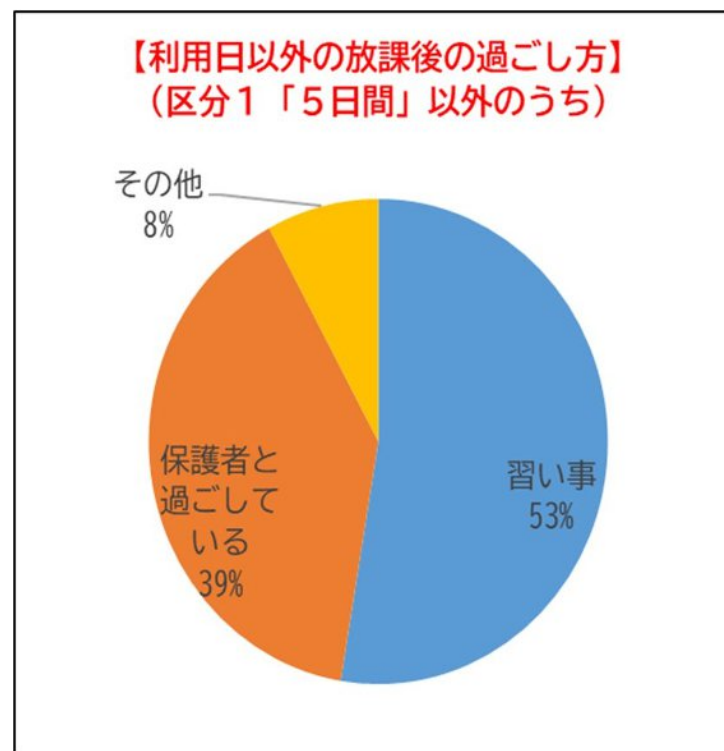
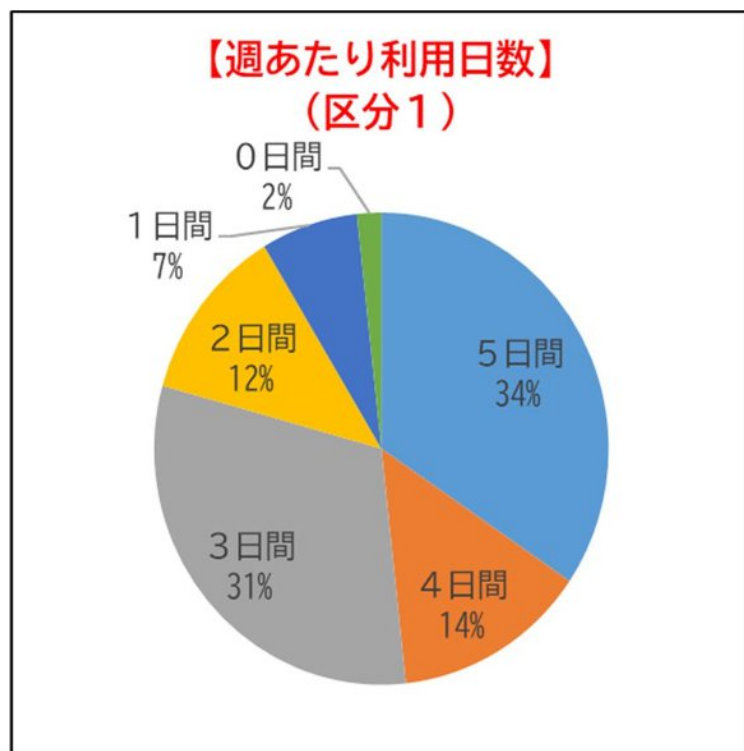
- ・希望したら入れるようになったので。
- ・入学後すぐではなく、子どもの学校生活の様子を見たかったため。
- ・生活の見通しがついてからの利用にした。
- ・学校に慣れてからと思ったため。
- ・仕事のため、短縮授業の日や夏休みで利用するため。

（区分2）

- ・育休期間であり、仕事復帰が5月だったため。
- ・本人の希望。

2 放課後子ども居場所事業 令和6年度モデル校の実施状況

利用日数（区分1）

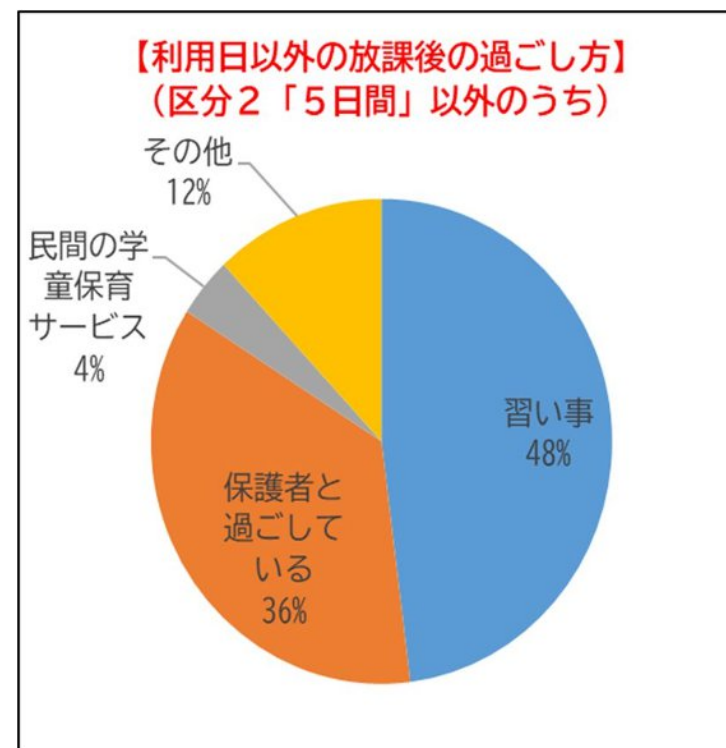
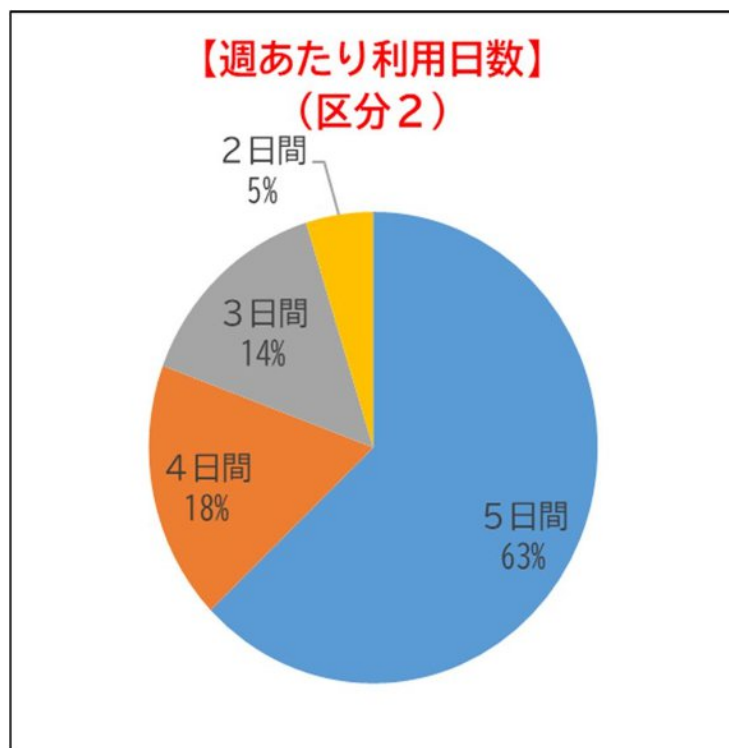


（区分1）

- 1週間の利用日数（平日）は、区分1利用者のうち「5日間」が34%、「4日間」が14%、「3日間」が31%、「2日間」が12%、「1日間」が7%の結果となった。
- 本事業利用日以外の放課後の過ごし方は、「習い事」が53%、「保護者と過ごしている」が39%であった。
- 本事業利用日以外の放課後の過ごし方について、その他の回答は「療育の通所か家庭で過ごす」等であった。

2 放課後子ども居場所事業 令和6年度モデル校の実施状況

利用日数（区分2）

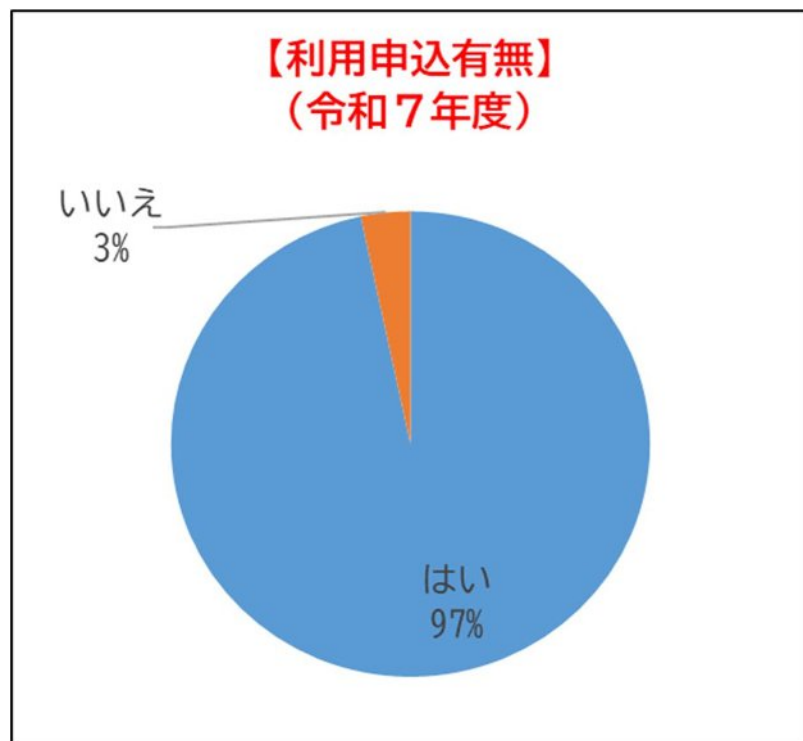


（区分2）

- 1週間の利用日数（平日）は、区分2利用者のうち6割以上が「5日間」であった。
- 本事業利用日以外の放課後の過ごし方は、「習い事」が48%、「保護者と過ごしている」が36%であった。
- 本事業利用日以外の放課後の過ごし方について、その他の回答は「家で留守番（6時間授業の日は留守番の時間が短い為）」、「放課後デイサービス」等であった。

2 放課後子ども居場所事業 令和6年度モデル校の実施状況

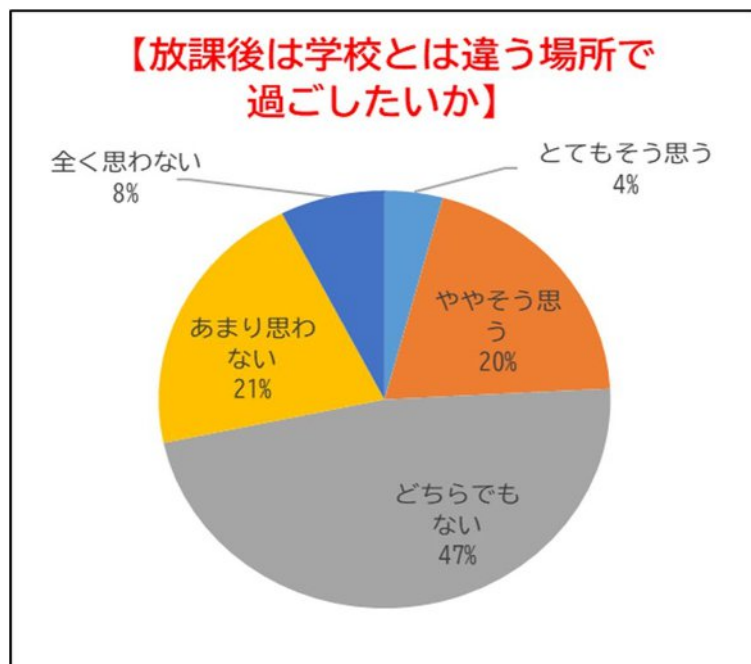
令和7年度利用申込



- 「はい」(97%)を選択した方の意見
 - ・両親共に仕事をしているため。
 - ・子どもも充実した時間を過ごせていそうで、職員の方とお話しもでき、安心して預けることができたため。
 - ・友達や先生との関係を継続したいから。
 - ・まだ自宅に一人で留守番をさせるのは不安なため。
 - ・子供が引き続き利用することを望んでいるため。
 - ・申込みば基本的に利用できるから。
 - ・他に利用したい施設がないから。
 - ・安く預かってもらえるため。
 - ・引き続き学校敷地内で安全なため。
 - ・習い事等の対応や一人一人しっかり見てくれること等大変満足しているから。
 - ・長期休みや短縮授業のある月に利用したいため。
- 「いいえ」(3%)を選択した方の意見
 - ・仕事の関係で19時までに迎えに行けないから。
 - ・以前の学童とは違ってイベント事がなくつまらないという子供の意見と学年が上がったのを理由に区分2から区分1へ徐々に利用を減らしてきた。
 - ・3年生になると6時間授業が増え、利用機会が減るので。
- 「いいえ」を選択した方のうち、令和7年度の放課後の過ごし方は、「自宅にて留守番」「もし必要であれば再度申し込みを行うつもり」等であった。

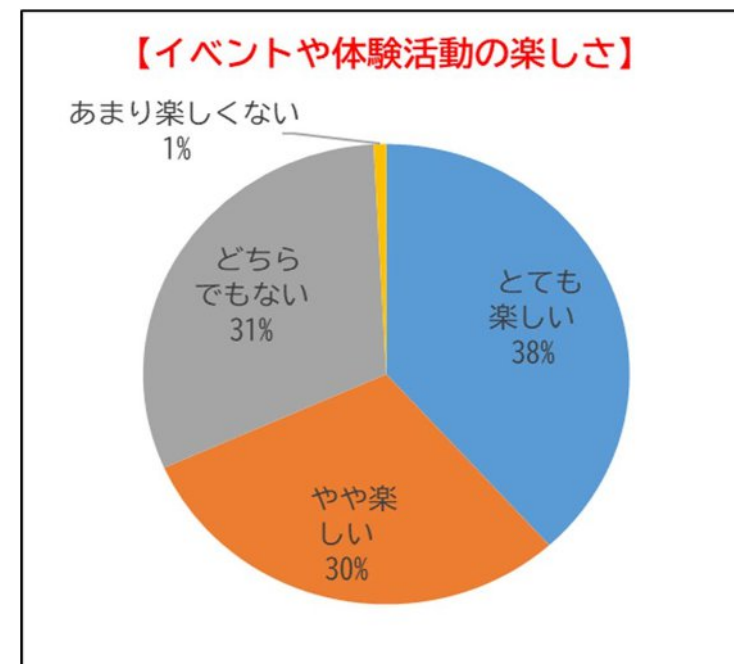
2 放課後子ども居場所事業 令和6年度モデル校の実施状況

放課後の居場所（児童に対する質問）



●放課後は学校とは違う場所で過ごしたいか、について「とてもそう思う」又は「ややそう思う」が24%、「どちらでもない」が47%、「あまり思わない」「全く思わない」が29%であった。

イベントや体験活動の楽しさ（児童に対する質問）



●イベントや体験活動は、「とても楽しい」又は「やや楽しい」が68%、「どちらでもない」が31%、「あまり楽しくない」が1%となった。

●「とても楽しい」又は「やや楽しい」の理由

- ・友達や外部との関わりが増えて楽しむことができるため。
- ・外部からも講師を呼んで下さり工夫してもらえた。
- ・毎月いろいろなイベントがあるため。

●「どちらでもない」の理由

- ・自由に遊ぶ方が楽しい。
- ・毎日の外遊びは楽しいが、イベントや体験活動はあまりないような気がするから。

3 放課後子ども居場所事業 令和7年度モデル校の実施状況

令和6年度からの実施校（4校）

開始 年度	学校 (所在区)	全児童数 ①	登録児童数 ② (②／①)	利用児童数		利用児童数 ⑤ (⑤／②)	利用児童数		学区内民設クラブ クラブ数／入室児童数
				利用区分1 ③ (③／②)	利用区分2 ④ (④／②)		利用区分1 ⑥ (⑥／⑤)	利用区分2 ⑦ (⑦／⑤)	
R6	栄小 (西区)	628人	140人 (22.3%)	56人 (40.0%)	84人 (60.0%)	93人 (66.4%)	32人 (34.4%)	61人 (65.6%)	R6.4.1 1か所／48人 R7.4.1 1か所／47人
	鈴谷小 (中央区)	552人	166人 (30.1%)	62人 (37.3%)	104人 (62.7%)	106人 (63.9%)	35人 (33.0%)	71人 (67.0%)	R6.4.1 2か所／37人 R7.4.1 2か所／33人
	岸町小 (浦和区)	738人	158人 (21.4%)	67人 (42.4%)	91人 (57.6%)	91人 (57.6%)	27人 (29.7%)	64人 (70.3%)	R6.4.1 1か所／39人 R7.4.1 1か所／39人
	新和小 (岩槻区)	267人	105人 (39.3%)	60人 (57.1%)	45人 (42.9%)	76人 (72.4%)	40人 (52.6%)	36人 (47.4%)	—

※全児童数はR7.4.4時点、登録児童数はR7.4.1時点、利用児童数はR7.4.30時点の平日平均

- 令和6年度から4校でモデル事業を開始し、令和7年度からは9校追加して13校でモデル事業を実施。
- 令和6年度から実施している4校では、全ての小学校において令和6年4月時点より登録児童数が増加。
- 学区内の民設クラブの入室児童数は、令和6年4月時点と比較して微減または横ばい。

3 放課後子ども居場所事業 令和7年度モデル校の実施状況

令和7年度からの実施校（9校）

開始 年度	学校 (所在区)	全児童数 ①	登録児童数 ② (②/①)	利用区分		利用児童数 ⑤ (⑤/②)	利用区分		学区内民設クラブ クラブ数/入室児童数
				③ (③/②)	④ (④/②)		⑥ (⑥/⑤)	⑦ (⑦/⑤)	
R7	七里小 (見沼区)	327人	74人 (22.6%)	35人 (47.3%)	39人 (52.7%)	51人 (68.9%)	21人 (41.2%)	30人 (58.8%)	—
	与野本町小 (中央区)	544人	149人 (27.4%)	59人 (39.6%)	90人 (60.4%)	102人 (68.5%)	32人 (31.4%)	70人 (68.6%)	R6.4.1 2か所/ 54人 R7.4.1 2か所/ 21人
	常盤小 (浦和区)	1,112人	202人 (18.2%)	98人 (48.5%)	104人 (51.5%)	113人 (55.9%)	41人 (36.3%)	72人 (63.7%)	R6.4.1 4か所/160人 R7.4.1 4か所/113人
	針ヶ谷小 (浦和区)	647人	154人 (23.8%)	69人 (44.8%)	85人 (55.2%)	105人 (68.2%)	39人 (37.1%)	66人 (62.9%)	R6.4.1 2か所/ 72人 R7.4.1 2か所/ 36人
	大谷場東小 (南区)	597人	143人 (24.0%)	52人 (36.4%)	91人 (63.6%)	95人 (66.4%)	27人 (28.4%)	68人 (71.6%)	R6.4.1 1か所/ 46人 R7.4.1 1か所/ 36人
	中尾小 (緑区)	779人	139人 (17.8%)	40人 (28.8%)	99人 (71.2%)	97人 (69.8%)	21人 (21.6%)	76人 (78.4%)	R6.4.1 1か所/ 23人 R7.4.1 1か所/ 22人
	道祖土小 (緑区)	988人	143人 (14.5%)	57人 (39.9%)	86人 (60.1%)	87人 (60.8%)	27人 (31.0%)	60人 (69.0%)	R6.4.1 3か所/104人 R7.4.1 3か所/ 90人
	尾間木小 (緑区)	999人	204人 (20.4%)	81人 (39.7%)	123人 (60.3%)	127人 (62.3%)	45人 (35.4%)	82人 (64.6%)	R6.4.1 5か所/159人 R7.4.1 2か所/ 45人
	上里小 (岩槻区)	355人	91人 (25.6%)	39人 (42.9%)	52人 (57.1%)	66人 (72.5%)	25人 (37.9%)	41人 (62.1%)	R6.4.1 1か所/ 46人 R7.4.1 1か所/ 23人

※全児童数はR7.4.4時点、登録児童数はR7.4.1時点、利用児童数はR7.4.30時点の平日平均

- 学校によって登録率や利用率に差が生じている。
- 学区内の民設クラブの入室児童数は、令和6年4月時点と比較して大きく減少。
また、尾間木小学校区の民設クラブは、5クラブから2クラブに統合。
- 現在、放課後子ども居場所事業により影響を受けた民設クラブへの支援策を検討中。

4 放課後子ども居場所事業 令和8年度導入候補校（案）

- 令和8年度からの本格実施を見据え、待機児童が生じることが見込まれる学区、クラブ運営に係る保護者負担の軽減が期待される等の中から追加実施候補校を選定。

学校 (所在区)	児童数※1	公設入室 児童数※1	民設入室 児童数※1	待機児童 見込数※2	学区内民設クラブ	
						保護者会
植竹小 (北区)	751 人	43 人	116 人	46 人	2 か所	1 か所
芝川小 (大宮区)	751 人	—	80 人	—	2 か所	2 か所
大砂土東小 (見沼区)	1,097 人	—	159 人	—	4 か所	3 か所
大和田小 (見沼区)	—	—	—	—	—	—
神田小 (桜区)	398 人	50 人	36 人	32 人	1 か所	0 か所
大久保小 (桜区)	210 人	54 人	—	16 人	—	—
上木崎小 (浦和区)	776 人	54 人	97 人	70 人	3 か所	3 か所
本太小 (浦和区)	909 人	56 人	168 人	39 人	4 か所	4 か所
文蔵小 (南区)	650 人	55 人	119 人	14 人	3 か所	0 か所
三室小 (緑区)	899 人	69 人	101 人	18 人	2 か所	1 か所
大門小 (緑区)	765 人	90 人	43 人	43 人	1 か所	0 か所
西原小 (岩槻区)	460 人	70 人	21 人	0 人	2 か所	0 か所

※1 児童数はR7.4.4時点。入室児童数、クラブ数はR7.4.1時点。

※2 待機児童見込数はR6年度に作成した需要推計を基に算出したR8.4.1時点の想定。